

平成18年4月 1日から
平成19年3月31日まで

平成18年度（第60年度）
事業報告書・決算書

財団法人 三越厚生事業団

平成十八年度事業報告

(事業の概況)

今年度は公益事業改革法の平成二十年施行に先立ち、当財団の将来の存続の見通しを検証しつつ基本理念をどのように実行していくのかを改めて確認するスタートの年でありました。

その中でも主たる事業である低額健診事業については、目的とする高質な健診を適正な収支構造に是正しながら進めていくための業務改善に注力いたしました。

具体的には、ヒヤリハット事例の徹底分析、自動判定プログラムの充実による結果判定の補強、医師による健診結果電話相談の開設などを要員体制の見直しとあわせて実施するとともに、検査の精密化と効率化を維持していくために血液分析機やデジタル胃エックス線装置など新鋭機への買い替えを行いました。

また事務処理能力の向上を図るため、各保険事業者の様々な要求に円滑に対応できる請求事務システムの構築に取り組みました。

受診者数は契約企業の正社員の減員などの要因により、前年対比95%(12,650名)となり収入金額は昨年より減少しましたが、同時にコストの削減に努めた結果、当該部門の事業収支差額は△91,753千円で前年よりも若干の赤字増で推移しました。

診療特別会計部門におきましては、投薬処方期間の規制緩和で再来患者は通院間隔を長く出来るなどの要因があり、来診者数は前年の98パーセントとなっており、診療報酬は昨年よりも減少し若干の黒字に留まりました。

次に、保健衛生思想の普及活動につきましては、医学セミナーの更なる充実を図るべく外部の権威の招聘を増やし講演テーマの幅を広げ好評を博しました。

医学研究助成については、東京都内での募集に限るという行政上の制約の中で優秀な研究課題の確保に努め、例年に劣らない内容での助成をおこないました。

これらの活動のほか、内部事項として公正で働きやすい職場環境の確立に向けた就業規則と評価制度の改定作業を進めました。

また、財務面では金融資産の時価評価や将来債務の引当金計上を行うと共に、過去の決算において適当でないと思われる引当金認識の修正などを行って、新会計制度に則った内容に移行致しました。

その結果、キャッシュフローは約52百万円の流出となりましたが、一般正味財産は約66百万円の減少に留まりました。また保有株式の時価評価により基本財産はこれまでの約10億35百万円から今期末は約21.8億円となりました。

(対処すべき課題)

当財団の財務構造は、今後証券市場の動向により大きく変動することとなりますが、リスクを最小化しつつ運用収入を確保する手法の確立が望まれます。

また、公益事業として今後も低額健診事業を継続するためには受診者の拡大とあわせ健診の項目・内容・レベルについてコストパフォーマンスをはかりつつ、公益性とのバランスをとることが最重要課題であると認識しております。

I 寄附行為事項

1. 生活習慣病の予防、診断治療に関する研究事業（寄附行為第4条第1号事業）

当事業団役員並びに職員の研究成果の公表

(1) 臨床的研究の発表

平成17年度に実施した各種健診の統計的調査と観察成績を「事業年報」第33号に発表し、各職域健康保険組合及び関連財団法人等93団体へ配布した。

(2) 平成17年度各部門研究とその発表会の開催

○実施日 4月27日(木)

○会場 エステック情報ビル21階 会議室E

○発表 発表は11題で審査の結果、以下の3題について表彰した。

1位 健康推進部シニアチーフ 樋口 智久

「健診システムにおけるシステムダウン時の手動運用方法」

2位 検査技師 影山 洋子

「高値の高感度CRPとインスリンの関係」

3位 医師 横山 雅子

「MCVを健診で有効に活用するためには—MCVを用いた新しいスクリーニング法—」

(3) 当財団医師等職員の研究成果発表は以下の通り。

①国際学会における演題発表

氏名	職種	参加月	名称	演題	開催地
中村 治雄	医師	4月	5th Congress of Asian-Pacific Society of Atherosclerosis and Vascular Disease(APSVD2006)	Priming prevention of cardiovascular diseases among hypercholesterolemic Japanese by low dose of pravastatin	韓国
中村 治雄	医師	6月	Primary prevention of cardiovascular diseases among hypercholesterolemic Japanese with a low dose of Pravastatin International Symposium on Atherosclerosis 2006 Sankyo Forum	A Trilogy of Primary Prevention Statin Trials —The impact of these landmark studies on clinical practice—	イタリア
中村 治雄	医師	11月	The 17th Great Wall International Congress of Cardiology 城国心病学会シンポジウム	Management of Elevated in the Prevention Group of Adult Japanese Study	中国

②当事業団医師の外部講演会（医師、医療従事者等への啓蒙活動）

氏名	参加月	名称	演題	開催地
中村 治雄	4月	高脂血症フォーラム 開発から35年日本のエビデンス—MEGA Studyからのメッセージ—	日本人における高脂血症治療 —MEGA Studyのサブ解析結果から—	東京都

中村 治雄	5月	高脂血症フォーラム（日医生涯教育認定講座5単位）	コレステロールの治療を考える－MEGA Study の成績から－	久留米市
中村 治雄	6月	高脂血症専門家会議	The results of MEGA Study	韓国
中村 治雄	6月	なるほど高脂血症	女性の高脂血症をどうするか	東京都
中村 治雄	7月	第8回城西地区生活習慣病フォーラム	性差を含めたリスクとメバロチン	東京都
中村 治雄	11月	平成18年度台湾動脈硬化学会 教育講演	高脂血症患者の一次予防試験	台湾
横山 雅子	9月	第252回文祥堂フォーラム	気になる頭痛の原因と予防－救急車で搬送される頭痛、日常でみられる頭痛、二日酔いの頭痛－	横浜市
横山 雅子	12月	新宿区医師会女医会（第24回やすらぎ会）	頭痛診療（世界50ヶ国共通の国際頭痛学会分類を踏まえて）	東京都

③学会における演題発表

氏名	参加月	名称	演題
近藤 修二	4月	第103回日本内科学会講演会	空腹時血糖及びHbA1Cと左室機能（収縮及び拡張）の相関について
横山 雅子	4月	第103回日本内科学会総会	飲酒、喫煙、運動習慣、BMIと血清脂質の関係
中村 治雄	5月	第47回日本神経学会総会 ランチョンセミナー	プラバスタチン投与による心血管系疾患の抑制－MEGA Study より－
中村 治雄	5月	第49回日本糖尿病学会 モーニングセミナー	MEGA Study における糖尿病の意義とメバロチンの効果
中村 治雄	6月	第5回 Vascular Science 研究会	Mevalotin による心血管系疾患の初発抑制－MEGA Study より－
中村 治雄	7月	第15回日本脳ドック学会総会 ランチョンセミナー	脳卒中と血清脂質
中村 治雄	7月	第38回日本動脈硬化学会総会 Featured Session	日本人における高コレステロール血症の治療－MEGA Study の結果から－
中村 治雄	7月	第38回日本動脈硬化学会総会 シンポジウム	MEGA Study における虚血性心疾患(CHD)に対するリスク因子の検討
縦山 幸彦 米村 篤 中村 治雄 他	7月	第38回日本動脈硬化学会総会 シンポジウム	脂質低下療法と動脈硬化の画像診断：MRIによる評価
Mizuno K. Nakamura H. MEGA Study Group	7月	第38回日本動脈硬化学会総会 シンポジウム	Management of dyslipidemia in Asia Management of elevated cholesterol in the primary prevention group of adult Japanese (MEGA) Study－Main results and sub analysis－

中村 治雄	8月	第4回先進心血管エコー研究会	コレステロールの治療を考える —MEGA Studyの結果から—
中村 治雄	9月	第28回日本臨床栄養学術総会 第27回日本臨床栄養協会学術総会 第4回連合大会 イブニングセミナー	コレステロール低下の一次予防試験 —MEGA Studyの結果から—
中村 治雄	9月	第47回日本人間ドック学会学術大会 第1回国際人間ドック会議 シンポジウム	Clinical significance of C-reactive protein (CRP) among Japanese for predicting atherosclerotic events
船津 和夫	9月	第47回日本人間ドック学会学術大会	中年男性における糖尿病発症リスクの検討
影山 洋子	9月	第47回日本人間ドック学会学術大会	高感度CRP高値とインスリン(IRI)の関係
近藤 修二	9月	第54回日本心臓病学会学術集会	metabolic syndromeにおける心機能の検討
中村 治雄	11月	1st International Congress for Medical Use of Functional Foods	Functional Foods Reducing Atherosclerotic Risk
中村 治雄	11月	平成18年度台湾動脈硬化学会 教育講演	高脂血症患者の一次予防試験
横山 雅子	11月	第34回日本頭痛学会総会	頭痛と生活習慣(飲酒、喫煙、ストレス、睡眠、運動)

④当事業団医師の発表論文

論文名	氏名	掲載雑誌名
生活習慣病にならない健康な毎日を目指す	中村 治雄 多田 紀夫 島崎 弘幸	毎日ライフ 5: 60-65, 2006
シリーズ・スタチン療法の新常識No.1:脳卒中領域におけるスタチン療法の意義を問う	中村 治雄 片山 泰朗 棚橋 紀夫	日本医事新報 2006; 4227: C1-C8
A possible association between coronary plaque instability and complex plaques in abdominal aorta	Momiyama Y. Nakamura H. et al.	Arterioscler Thromb vasc Biol. 2006; 26: 903-909
実地医家が実践する高コレステロール血症治療継続のコツ	中村 治雄 菅原 正弘	日本医事新報 2006; 4286: C1-C8
書評「日本人のための高血圧治療Q&A」	中村 治雄	日本医事新報 2006; 4291: 34
メタボリックシンドローム対策としての特保の新しい応用 —特保2品(エコナ、コレステア)を使った臨床試験から—	中村 治雄	別冊ASAHI Medical 2006;35:1
糖尿病患者における脂質管理 —MEGA Studyをふまえて—	中村 治雄	Diabetes J. 2006; 34: 31-33
日本人における動脈硬化性疾患の初発抑制のエビデンス —MEGA Study—	中村 治雄 MEGA Study Group	最新医学 2006; 61: 2167-2173

最近のわが国のEBM -MEGA Study-	中村治雄 MEGA Study Group	Mebio 2006;23: 132-137
脳卒中抑制を目指した脂質低下療法のすすめ	中村 治雄 篠原 幸人	日本医事新報 2006 ; 4304 : C1-C8
高脂血症	中村 治雄	Geriatric Med. 2006;44: 1399-1404
Primary prevention of cardiovascular disease with pravastatin in Japan (MEGA Study): a prospective randomised controlled trial.	Haruo Nakamura Kikuo Arakawa Hiroshige Itakura et al. for the MEGA Study Group	Lancet 2006; 368: 1155-1163
Influences of Age, Sex, and LDL-C Change on Cardiovascular Risk Reduction with Pravastatin Treatment in Elderly Japanese Patients: A Post Hoc Analysis of data from the Pravastatin Anti-atherosclerosis Trial in the Elderly (PATE)	Yasuyoshi Ouchi Yasuo Ohashi Haruo Nakamura et al. for the PATE Study Group	Current Therapeutic Res. 2006; 67: 241-256
脳血管障害各論-高脂血症治療-	中村 治雄	日本臨床 2006 ; 64 (増刊号) : 93-99
ISA 2006 Sankyo Forum -A Trilogy of Primary Prevention Statin Trials- The impact of these landmark studies on clinical practice- ランドマーク試験の实地臨床へのインパクト	Shepherd J. Gotto AM. Nakamura H. et al.	Nikkei Medical 2006;11:191-200
日本発の大規模臨床試験-MEGA Study-	中村 治雄	臨床と研究 2007 ; 84 : 62-66
MEGA Study の実際と今後の活用	中村 治雄	呼吸と循環 2007 ; 55 : 285-292
Clinical Significance of C-Reactive Protein among Japanese for Predicting Atherosclerotic Events.	Haruo Nakamura Kazuo Funatsu Takeshi Yamashita Emiko Miyajima Masaru Homma Kyouko Mouri Youko Kageyama	Ningen Dock 2007; 21: 41-45
特定保健用食品の組み合わせ摂取による有効性、安全性の検討-植物ステロールエステル添加マヨネーズと低分子化アルギン酸ナトリウム併用による有用性-	宮島 恵美子 細合 浩司 中村 治雄 他	Prog. Med 2007;27: 695-698
思っている以上に多い片頭痛	横山 雅子	Medical Tribune 2006年6月1日号 p55
産業医学と頭痛-産業医の現場では-	横山 雅子	Medicina vol.43 no.11, 1910-12
頭痛と生活習慣病 (飲酒、喫煙、ストレス、睡眠、運動)	横山 雅子	日本頭痛学会誌 33 巻 2 号 2006, p97

第1号事業 総計 事業費

8, 049千円

予算

10, 520千円

2. 生活習慣病その他重要な疾病の予防及び健康の保持増進に関する事業（同条第2号事業）

(1) 低額集団健診事業（事業費 479,121千円）

予防医学面から地域、職域を対象とした総合健診活動及び家庭の主婦を中心とした女性健診を実施し、生活習慣病その他重要な疾病の予防及び早期発見に努めると共に、健診結果に基づき健診者の生活指導を積極的に行い健康の保持、増進に寄与した。

平成18年度の実施状況は次の通りである。

集団健診 167社又は団体

○生活習慣病健診	9,416名（前年度 9,999名）
○女性健診	3,122名（前年度 3,215名）
○生活習慣病健診特別コース	112名（前年度 77名）
計	12,650名（前年度 13,291名）

○オプション検査

①血管機能検査	受診者	<u>534名（前年度 489名）</u>
②癌検査	受診者	<u>1,063名（前年度 805名）</u>
③肺癌検査	受診者	<u>213名（前年度 173名）</u>
④肝腎検査	受診者	<u>402名（前年度 316名）</u>
⑤乳がん検査	受診者	<u>762名（前年度 720名）</u>

(2) 生活習慣病健診報告懇話会（事業費 982千円）

当事業団で集団健診を行っている企業並びに健康保険組合の参加を得て、小講演会を開催すると共に生活習慣病健診所見に基づいて参加者と意見の交換を行い、今後の健診事業活動の参考とすべく開催された。

実施日：平成18年12月14日（木）

場所：新宿京王プラザホテル本館43階「コメット」「スターライト」

参加人数：61名

報告会：1) 講演 厚生労働省「標準的な健診・保健指導プログラム」について
演題：「メタボリックシンドローム健診と臨床検査」
講師：国際医療福祉大学教授、慶応義塾大学名誉教授
渡辺清明氏
2) 質疑応答 司会・進行 三越診療所副所長 山下毅

(3) 無料巡回健診（事業費 10,071千円）

無料奉仕の健診を次の通り行った

①期間 6月2日（金）～ 6月23日（金）

②巡回先 6施設

	受診延人員	3,121名（前年度 3,023名）
○信愛寮（老人ホーム）	血液検査（18A・4A項目）	377名（前年度 376名）
	胸部X線撮影	267名（前年度 242名）

	心電図		367名 (前年度 360名)
○聖明園 (盲・老人ホーム)	血液検査 (18A・4A項目)		420名 (前年度 396名)
	胸部X線撮影		239名 (前年度 216名)
	心電図		154名 (前年度 130名)
○サンホーム (老人ホーム)	血液検査 (18A・4A項目)		78名 (前年度 87名)
	胸部X線撮影		70名 (前年度 76名)
	心電図		52名 (前年度 54名)
○滝乃川学園 (精神薄弱者厚生施設)	血液検査 (18A・4A項目)		74名 (前年度 77名)
	胸部X線撮影		156名 (前年度 155名)
	心電図		157名 (前年度 159名)
○至誠学舎 (老人ホーム)	血液検査 (18A・4A項目)		142名 (前年度 142名)
	胸部X線撮影		144名 (前年度 140名)
	心電図		146名 (前年度 140名)
○パサージュいなぎ (精神薄弱者厚生施設)	血液検査 (18A・4A項目)		147名 (前年度 87名)
	胸部X線撮影		65名 (前年度 93名)
	心電図		66名 (前年度 93名)

第2号事業 総計 事業費 **490,174**千円 予算 **511,830**千円

3. 生活習慣病その他重要な疾病の予防、診断、治療に関する助成事業 (同条第3号事業)

(1) 第34回三越医学研究助成 (助成金総額 1,500万円)

平成18年度三越医学研究助成並びに留学渡航費助成実行委員会開催

開催日：研究課題決定 5月17日 (水)

審査員決定 9月11日 (月)

助成対象者決定 10月12日 (木)

①責任者 常務理事 中村 治雄
委員

三越診療所所長 船津 和夫、三越診療所副所長 山下 毅 事務局 加藤 肇

②研究課題の決定

1. 「睡眠時無呼吸症候群—その意義と予防・治療」
2. 「消化器疾患と酸化ストレス」
3. 「動脈硬化性疾患における再生医療」

③選考会 上記テーマにおける各専門分野医師2名及び当財団医師により選考を行った。選考に当っては応募者の研究機関名、氏名をブラインドにして評価。総合点により上位を選考し、助成金額案を付して理事長に推薦し決定。

④贈呈式 10月31日(火)に三越日本橋本店7階特別食堂「不二の間」にて贈呈式を行い、助成金をそれぞれ交付した。

⑤助成対象者は以下の通り

第34回 三越医学研究助成対象者

氏名	年齢	所属機関	課題分類	研究課題	助成金
寺本 信嗣 <small>てらもと しんじ</small>	45	東京大学医学部附属病院 老年病科・講師	A	Gender medicine からみた睡眠時無呼吸症候群の診断と治療 -診断への性差アプローチとホルモン補充療法の効果-	300万円
小野 卓史 <small>おの たかし</small>	43	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科顎顔面矯正学分野・講師	A	非侵襲的脳機能画像法 (functional MRI) を用いた閉塞型睡眠時無呼吸症候群に対するオーラルアプライアンス (口腔内装置) 治療に伴う高次脳機能変化の予測と評価	200万円
高橋 浩二 <small>たかはし こうじ</small>	50	昭和大学・歯学部・助教授	A	睡眠時無呼吸症候群の予防いびき音の音響特性評価による睡眠時無呼吸症候群の診断	200万円
綱脇 様子 <small>つなわき しょうこ</small>	55	国立成育医療センター 母子感染研究部・室長	B	NOX1 型 NAPH oxidase 由来酸化ストレスによる腸上皮細胞インターロイキン8産生の解析	200万円
正岡 建洋 <small>まさおか たつひろ</small>	35	財団法人ライフ・エクステンション研究所附属 永寿総合病院 消化器科	B	胃内Nitric oxide(NO)とFunctional dyspepsia (消化器疾患と酸化ストレス)	300万円
川上 明夫 <small>かわかみ あきお</small>	37	東京医科歯科大学老年病内科 助手	C	アポリポ蛋白質CIIIの催炎症作用の細胞分子機構:高トリグリセリド血症の動脈硬化促進機序の解明をめざして	200万円
寺田 典生 <small>てらだ よしお</small>	47	東京医科歯科大学医学部 附属病院 血液浄化療法部 助教授	C	動脈硬化性疾患による腎障害に対する再生医学的手法を用いた新規治療法の検討	100万円

(注) 研究課題

- A 睡眠時無呼吸症候群-その意義と予防・治療
- B 消化器疾患と酸化ストレス
- C 動脈硬化性疾患における再生医療

(2) 第7回海外留学渡航費助成 (助成金総額 100万円)

海外留学を志す若手医学研究者をバックアップする為、留学費用の一部として渡航費の助成を東京都内の大学医学部、医学研究施設、病院等を対象に5月25日(木)より公募を開始し、8月31日(木)締め切

りまでに合計2件の応募があり、選考委員会による厳正な審査の結果、対象者を下記の通り2名に決定、10月31日(火)に三越日本橋本店7階 特別食堂「不二の間」に於いて贈呈式を行い、助成金をそれぞれ交付した。

第7回 海外留学渡航費助成対象者

氏名	年齢	所属機関	留学先	研究課題	助成金
おかもと かずま 岡本 一真	33	慶應義塾大学医学部 外科	ウィーン医科大学付属総合病院	慢性心不全に対する 間葉系肝細胞移植の 臨床応用(心臓血管 外科、幹細胞研究)	50万円
よつ りえ 四津 里英	27	聖路加国際病院 皮膚科	London School of Hygiene & Tropical Medicine	発展途上国における 生活習慣病とそれを 取り巻く社会(公衆 衛生学)	50万円

尚、医学研究助成、海外留学渡航費助成共に、応募対象は東京都内の大学医学部、研究機関、病院等とし、5月25日(木)より公募を開始し、8月31日(木)締め切りまでに各々13件、2件の応募があり、外部審査も含め、選考委員会による厳正な審査の結果、助成対象者を決定した。

第3号事業 総計 事業費 **17,406**千円 予算 **19,780**千円

4. 健康保持増進のための援助活動(同条第4号事業)

(1) 東京都児童福祉施設競技大会

健康の保持増進を目的とした東京都後援の児童福祉施設競技大会に以下の通り寄贈を行った。

○バレーボール、ドッジボール

日 程 : 7月28日(金)

場 所 : 東京体育館

寄贈品 : バレーボール 公認ボール 15個

〃 : ドッジボール 公認ボール 20個

尚、参加賞としてノートを750名に寄贈した。

○野球大会

日 程 : 8月1日(火)～2日(水)

場 所 : 三鷹市大沢総合グラウンド

寄贈品 : 野球用具 15セット

尚、参加賞としてノートを350名に寄贈した。

(2) 三多摩児童養護施設駅伝・マラソン大会

三多摩地区の養護施設児童の体力向上を目的としたスポーツ大会に参加賞を寄贈した。

日 程 : 2月11日(日)

場 所 : 国営昭和記念公園 みんなの原っぱ

寄贈品 : スポーツタオル 300枚

(3) その他協力

援助金を次の通り交付した。

○財団法人がんの子供を守る会（小児がん撲滅運動への援助）	10万円
○社会福祉聖明福祉協会（盲老人、虚弱高齢者の方々の健康促進）	20万円
○財団法人日本万歩クラブ（ウォーキング普及活動への援助）	70万円

第4号事業 総計 事業費 **2,522**千円 予算 **2,630**千円

5. 保健衛生思想の普及（同条第5号事業）

「生活習慣病」をテーマに、新聞等の媒体を介して広く一般の方々から参加を募り、健康セミナーを開催した。

<平成18年度開催結果>

回数：7回（健康セミナー 4回・健康講座 3回）（前年 7回）

参加者数：延べ 2,133名（前年 2,037名）

内容は以下の通り。

(1) 健康セミナー

①第17回健康セミナー開催

日時：5月30日(火) 午後1時～4時

場所：三越日本橋本店6階 「三越劇場」

参加人員：473名（定員500名）

テーマ：「生活習慣病から身を守るには」

講師・演題：三越厚生事業団三越診療所副所長 山下 毅

「コレステロールを考える（1）－基本的な事項から－」

三越厚生事業団常務理事 中村 治雄

「コレステロールを考える（2）－大規模臨床試験から－」

パネルディスカッション：パネリスト 中村 治雄・山下 毅

司 会 船津 和夫（三越厚生事業団三越診療所所長）

②第18回健康セミナー開催

日時：9月26日(火) 午後1時～4時

場所：三越日本橋本店6階 「三越劇場」

参加人員：469名（定員500名）

テーマ：「生活習慣病から身を守るには」

講師・演題：三越厚生事業団三越診療所医師部副部長 細合 浩司

「メタボリックシンドロームの診断：内臓型肥満と危険因子の重複」

防衛医科大学校内科主任教授・医学博士 大鈴 文孝氏

「高血圧の診断と治療」

パネルディスカッション：パネリスト 大鈴 文孝・細合 浩司

司 会 中村 治雄（三越厚生事業団常務理事）

③第19回健康セミナー開催

日 時：11月2日(木) 午後1時～4時

場 所：三越日本橋本店6階 「三越劇場」

参加人員：423名(定員500名)

テ ー マ：「生活習慣病から身を守るには」

講師・演題：三越厚生事業団三越診療所所長 船津 和夫

「酸化ストレスと病気 - 消化器病を中心に -」

日本医科大学教授(内科学) 水野 杏一氏

「睡眠時無呼吸症候群と心血管系の病気」

尚、健康セミナーに先立ち、第34回三越医学研究助成対象者代表寺本信嗣氏(東京大学医学部附属病院老年病科講師)による記念講演が行われた。

④第20回健康セミナー開催

日 時：2月9日(金) 午後1時～4時

場 所：新宿京王プラザホテル 南館4階 「扇」

参加人員：388名(定員400名)

テ ー マ：「生活習慣病から身を守るには」

講師・演題：三越厚生事業団常務理事 中村 治雄

「心臓病の予防：心臓病になりやすい人 なりにくい人」

国立がんセンター がん予防・検診研究センター 予防研究部長 津金 昌一郎氏

「がんの予防：がんになりやすい人 なりにくい人」

パネルディスカッション：パネリスト 津金 昌一郎氏・中村 治雄

司 会 船津 和夫(三越厚生事業団三越診療所所長)

⑤第9回健康講座開催

日 時：6月30日(金) 午後2時～3時30分

場 所：「府中市立中央文化センター ひばりホール」(府中市)

参加人員：188名(定員200名)

講 演：テーマ「心筋梗塞を防ごう」

講 師 三越厚生事業団三越診療所医師部副部長 近藤 修二

⑥第10回健康講座開催

日 時：8月2日(水) 午後2時～3時30分

場 所：国立せきやビル^{くにたち}4階 多目的ホール「富士・筑波・高尾」(国立市)

参加人員：85名(定員100名)

講 演：テーマ「気になる頭痛の原因と予防」

・救急車で搬送される頭痛は、日常でみられる頭痛

・二日酔いの頭痛

講 師 三越厚生事業団三越診療所神経内科・日本神経学会認定神経内科専門医・日本頭痛学会専門医・医学博士

横山 雅子

⑦第11回健康講座開催

日 時：10月16日(月) 午後2時～3時30分

場 所：多摩センター百貨店ビル「7階スカイラウンジ (多摩センター三越7階)」(多摩市)

参加人員：107名 (定員200名)

講 演：テーマ「糖尿病を中心とした最近の話題」

講 師 三越厚生事業団三越診療所医師部副部長 細合 浩司

(2) 広報活動

①保健衛生思想の普及のため、広報活動を次の通り実施した。

- ・平成18年10月1日～平成19年3月31日 東京メトロ丸の内線新宿駅ホーム内の広告媒体を利用し、生活習慣病予防をテーマに健康診断受診促進をアピールする広告を掲示した。

②事業年報の作成

平成17年度(平成17年4月～平成18年3月)に実施した集団健診、診療等の統計的調査と観察成績を「事業年報」第33号に掲載し、職域健康保険組合及び企業関係者、医療関係団体(病院・研究機関)、関連社団・財団法人等に配布した。

第5号事業 総計 事業費 **19,816**千円 予 算 **30,000**千円

6. 診療施設の設置運営(同条第6号事業)

診療患者数延数、職域入社、定期健診延数は次の通りである。

延総数 28,228名(前年度 28,561名)

(1) 延数内訳

内科	20,400名(前年度 20,769名)
予防注射	778名(前年度 900名)
職域入社・定期健診	95社又は団体
新宿区・中野区成人病健康診査	2,288名(前年度 1,938名)
合 計	28,228名(前年度 28,561名)

(2) 種目別内訳とその適用患者数

国民健康保険	8,375名(前年度 8,091名)
社会保険(政府管掌)	1,768名(前年度 1,740名)
〃(組合管掌)	9,466名(前年度 10,059名)
〃(その他)	468名(前年度 483名)
自費	273名(前年度 299名)
職域入社・定期健診	4,762名(前年度 4,953名)
予防注射	778名(前年度 900名)
新宿区・中野区成人病健康診査	2,288名(前年度 1,938名)
AIG スター生命保険審査料、意見書料等	50名(前年度 98名)
合 計	28,228名(前年度 28,561名)

II 管理・運営事項

1. 理事会・評議員会の開催

①開催日 平成18年5月10日(水)

場 所 株式会社三越本社会議室

<評議員会>

- 議 題
1. 平成17年度(第59年度)事業報告案及び収支計算書、正味財産増減計算書貸借対照表並びに財産目録案審議の件
 2. 理事選任の件
 3. 監事選任の件

<理事会>

- 議 題
1. 平成17年度(第59年度)事業報告案及び収支計算書、正味財産増減計算書貸借対照表並びに財産目録案承認の件
 2. 評議員選任の件

②開催日 平成18年8月4日(金)

場 所 株式会社三越本社会議室

<評議員会>

- 議 題
1. 第48回日本人間ドック学会学術大会主催の件
 2. 外部会計監査導入の件

- 報告事項
1. 新公益法人会計基準による第1四半期事業報告の件
 2. その他

<理事会>

- 議 題
1. 第48回日本人間ドック学会学術大会主催の件
 2. 外部会計監査導入の件

- 報告事項
1. 新公益法人会計基準による第1四半期事業報告の件
 2. その他

③開催日 平成18年10月31日(火)

場 所 株式会社三越本社会議室

<評議員会>

- 報告事項
1. 上半期の事業結果報告
 2. 第34回医学研究助成並びに第7回海外留学渡航費助成選考結果について
 3. その他

<理事会>

- 報告事項
1. 上半期の事業結果報告
 2. 第34回医学研究助成並びに第7回海外留学渡航費助成選考結果について
 3. その他

④開催日 平成19年3月23日(金)

場 所 株式会社三越本社会議室

<評議員会>

- 議 題 1. 平成19年度事業計画案及び収支予算案審議の件
報告事項 1. 公益法人制度改革について
2. その他

<理事会>

- 議 題 1. 平成19年度事業計画案及び収支予算案審議の件
報告事項 1. 公益法人制度改革について
2. その他

2. 登記事項

資産総額登記 平成18年5月19日(金)

3. 報告事項

- ①外部監査実施 実施日：平成18年 8月21日(月)～22日(火)
監査人：アーク監査法人

正味財産増減計算書

平成18年4月1日から平成19年3月31日まで

(単位:円)

科 目	合 計	一般会計	診療事業特別会計	内部取引消去
I 一般正味財産増減の部				
1 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益	120,598,518	120,598,518	0	0
② 特定資産運用益	15,110,000	15,110,000	0	0
③ 事業収益	617,177,469	388,507,911	228,669,558	0
④ 雑収益	31,760,366	29,171,376	2,588,990	0
⑤ 特別会計からの繰入額	0	5,317,309	0	△ 5,317,309
⑥ 引当金取崩額	11,865,000	11,865,000	0	0
経常収益計	796,511,353	570,570,114	231,258,548	△ 5,317,309
(2) 経常費用				
① 事業費	841,986,002	589,261,956	252,724,046	0
② 管理費	117,020,243	117,020,243	0	0
経常費用計	959,006,245	706,282,199	252,724,046	0
当期経常増減額	△ 162,494,892	△ 135,712,085	△ 21,465,498	△ 5,317,309
2 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
① 固定資産引当金振替	151,135,000	151,135,000	0	0
② 有価証券評価益	9,170,000	9,170,000	0	0
③ 公益事業基金評価益	165,000	165,000	0	0
経常外収益計	160,470,000	160,470,000	0	0
(2) 経常外費用				
① 特定資産評価損	23,367,000	23,367,000		
② 有価証券評価損	39,944,000	39,944,000		
③ 一般会計への繰出額	0	0	5,317,309	△ 5,317,309
経常外費用計	63,311,000	63,311,000	5,317,309	△ 5,317,309
当期経常外増減額	97,159,000	97,159,000	△ 5,317,309	5,317,309
税引前当期一般正味財産増減額	△ 65,335,892	△ 38,553,085	△ 26,782,807	0
法人税・都民税	1,471,100	0	1,471,100	0
当期一般正味財産増減額	△ 66,806,992	△ 38,553,085	△ 28,253,907	0
一般正味財産 期首 残高	1,170,482,460	1,023,325,388	147,157,072	0
一般正味財産 期末 残高	1,103,675,468	984,772,303	118,903,165	0
II 指定正味財産増減の部				
基本財産評価益	20,762,054,572	20,762,054,572	0	0
当期指定正味財産増減額	20,762,054,572	20,762,054,572	0	0
指定正味財産 期首 残高	1,035,878,174	1,035,878,174	0	0
指定正味財産 期末 残高	21,797,932,746	21,797,932,746	0	0
III 正味財産期末残高	22,901,608,214	22,782,705,049	118,903,165	0

貸借対照表

平成19年3月31日現在

(単位:円)

科 目	合 計	一般会計	診療事業特別会計
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	215,636,900	91,317,709	124,319,191
未収入金	59,736,751	34,210,053	25,526,698
貯蔵品	1,433,816	1,039,668	394,148
前払費用	12,690,305	9,133,127	3,557,178
流動資産合計	289,497,772	135,700,557	153,797,215
2 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	21,747,932,746	21,747,932,746	0
定期預金	50,000,000	50,000,000	0
基本財産合計	21,797,932,746	21,797,932,746	0
(2) 特定資産			
減価償却引当資産	149,788,000	149,788,000	0
公益事業基金	228,145,000	228,145,000	0
特定資産合計	377,933,000	377,933,000	0
(3) その他の固定資産			
減価償却資産	128,030,769	128,030,769	0
敷金	100,866,144	100,866,144	0
保険積立金	24,725,568	24,725,568	0
投資有価証券	319,226,000	319,226,000	0
その他の固定資産合計	572,848,481	572,848,481	0
固定資産合計	22,748,714,227	22,748,714,227	0
資産合計	23,038,211,999	22,884,414,784	153,797,215
II 負債の部			
1 流動負債			
買掛金	6,118,130	4,139,874	1,978,256
未払金	18,486,301	15,295,514	3,190,787
預り金	3,559,806	3,559,806	0
賞与引当金	24,806,548	16,620,341	8,186,207
未払法人税等	1,471,100	0	1,471,100
流動負債合計	54,441,885	39,615,535	14,826,350
2 固定負債			
退職給付引当金	69,861,900	49,794,200	20,067,700
役員退職慰労引当金	12,300,000	12,300,000	0
固定負債合計	82,161,900	62,094,200	20,067,700
負債合計	136,603,785	101,709,735	34,894,050

(単位:円)

科 目	合 計	一般会計	診療事業特別会計
Ⅲ 正味財産の部			
1 指定正味財産			
投資有価証券	1,035,878,174	1,035,878,174	0
投資有価証券評価益	20,762,054,572	20,762,054,572	0
指定正味財産合計	21,797,932,746	21,797,932,746	0
(うち基本財産への充当額)	(21,797,932,746)	(21,797,932,746)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2 一般正味財産			
一般正味財産	1,103,675,468	984,772,303	118,903,165
一般正味財産合計	1,103,675,468	984,772,303	118,903,165
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(377,933,000)	(377,933,000)	(0)
正味財産合計	22,901,608,214	22,782,705,049	118,903,165
負債及び正味財産合計	23,038,211,999	22,884,414,784	153,797,215

財 産 目 録 総 括 表

平成19年3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金	215,636,900	
現金手許有高	554,891	
普通預金	213,082,009	
定期預金	2,000,000	
未収入金	59,736,751	
貯蔵品	1,433,816	
前払費用	12,690,305	
流 動 資 産 合 計		289,497,772
2 固定資産		
(1) 基本財産	21,797,932,746	
投資有価証券	21,747,932,746	
定期預金	50,000,000	
(2) 特定資産等	377,933,000	
減価償却引当資産	149,788,000	
公益事業基金	228,145,000	
3 その他の固定資産	572,848,481	
減価償却資産	128,030,769	
敷金	100,866,144	
保険積立金	24,725,568	
投資有価証券	319,226,000	
固 定 資 産 合 計		22,748,714,227
資 産 合 計		23,038,211,999
I 負債の部		
1 流動負債		
買掛金	6,118,130	
未払金	18,486,301	
預り金	3,559,806	
賞与引当金	24,806,548	
未払法人税等	1,471,100	
流 動 負 債 合 計		54,441,885
II 固定負債		
退職給付引当金	69,861,900	
役員退職慰労引当金	12,300,000	
固 定 負 債 合 計		82,161,900
負 債 合 計		136,603,785
正 味 財 産		22,901,608,214

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

当期から「公益法人会計基準」(平成16年10月14日 公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議申合せ)を採用している。

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

投資有価証券

時価のあるもの……決算期末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は総平均法により算定)によっている。

時価のないもの……総平均法による原価法によっている。

(2) 固定資産の減価償却の方法

建物造作……定額法(但し、平成10年3月31日までは定率法)

建物附属設備……定率法

器具備品……定率法

(3) 引当金の計上基準

退職給付引当金……職員の退職給付に備えるため、当期末自己都合要支給額を計上している。

賞与引当金……職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する金額を計上している。

役員退職慰労引当金……役員退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく当期末要支給額を計上している。

(4) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

(5) 消費税の会計処理は、税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の残高は次のとおりである

(単位:円)

種類	科目	前期末残高	当期増減額	当期末残高
基本財産	有価証券	985,878,174	20,762,054,572	21,747,932,746
	定期預金	50,000,000	0	50,000,000
	小計	1,035,878,174	20,762,054,572	21,797,932,746
特定資産	減価償却引当資産	163,000,000	△ 13,212,000	149,788,000
	公益事業基金	250,000,000	△ 21,855,000	228,145,000
	小計	413,000,000	△ 35,067,000	377,933,000
合計		1,448,878,174	20,726,987,572	22,175,865,746

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

種類	科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの 充当額)	(うち一般正味財産からの 充当額)	(うち負債に対応する 額)
基本財産	有価証券(株式)	21,747,932,746	(21,747,932,746)	0	-
	定期預金	50,000,000	(50,000,000)	0	-
	小計	21,797,932,746	(21,797,932,746)	0	-
特定資産	減価償却引当資産	149,788,000	0	(149,788,000)	-
	公益事業基金	228,145,000	0	(228,145,000)	-
	小計	377,933,000	0	(377,933,000)	-
合計		22,175,865,746	(21,797,932,746)	(377,933,000)	-

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高 (単位:円)

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物造作	171,871,850	75,100,877	96,770,973
建物附属設備	162,785,178	141,237,837	21,547,341
器具備品	17,254,309	7,541,854	9,712,455
合計	351,911,337	223,880,568	128,030,769

5. ファイナンスリース取引関係

(1)リース物件の取得価額相当額減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

【器具備品】

取得原価相当額	161,765,000
減価償却累計額相当額	68,847,753
期末残高相当額	92,917,247

(2)未経過リース料期末残高相当額

1年以内	50,543,614
1年超	42,373,633
合計	92,917,247

(3)当期の支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

支払リース料	33,208,143
減価償却費相当額	30,613,306
支払利息相当額	2,594,837

(4)減価償却費相当額の算定法は定額法によっている。

(5)利息相当額の算定法は、リース料総額とリース資産計上額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっている。

6. 退職給付関係

(1) 採用している退職給付制度の概要

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

(2) 退職給付債務及びその内訳

退職給付債務	△ 73,199,500
退職給付引当金	△ 73,199,500

(3) 退職給付費用の内訳

勤務費用	26,001,100
過去勤務債務の費用	45,512,500
退職給付費用	71,513,600

(4) 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

退職給付債務の計算に当っては、退職慰労金制度に基づく期末自己都合要支給額を基礎として計算している。

(5) 過去勤務債務の額の処理年数 1年

建 物 造 作

別表(1)

(単位:円)

構造又は用途・細目	取得年月	数	取得価格	減価償却累計	耐用年数	償却定率	年度末簿価
建物造作	1992.10	1	156,628,016	70,648,919	50	0.045	85,979,097
〃	2002.05	1	15,243,834	4,451,958	15	0.066	10,791,876
合 計		2	171,871,850	75,100,877			96,770,973

(注) 1998年4月1日以降に取得した建物造作は、定額法で処理している

建 物 附 属 設 備

別表(2)

(単位:円)

構造又は用途・細目	取得年月	数	取得価格	減価償却累計	耐用年数	償却定率	年度末簿価
電気設備	1992.10	1	27,298,849	24,327,302	15	0.142	2,971,547
〃	2002.05	1	3,311,663	1,750,559	15	0.142	1,561,104
衛生設備	1992.10	1	28,204,389	25,134,273	15	0.142	3,070,116
〃	2002.05	1	189,751	189,751	3		0
冷暖房通風設備	1992.10	1	84,698,693	75,479,039	15	0.142	9,219,654
〃	2002.05	1	9,193,713	5,333,139	13	0.162	3,860,574
災害報知設備	1992.10	1	7,980,201	7,581,191	8	0.250	399,010
〃	2002.05	1	1,907,919	1,442,583	8	0.250	465,336
合 計		8	162,785,178	141,237,837			21,547,341

(注) 衛生設備(2002.05取得)は少額資産一括償却のため、3年均等償却で処理している

器 具 備 品

別表(3)

(単位:円)

構造又は用途・細目	取得年月	数	取得価格	減価償却累計	耐用年数	償却定率	年度末簿価
家具電気機器							
受付カウンター	1992.10	1	4,272,310	4,058,694	8	0.250	213,616
エンドスコープクロセット	1987.04	1	436,000	413,929	15	0.142	22,071
看板・広告機器							
出退表示設備	1992.10	1	277,905	264,010	10	0.206	13,895
検診設備							
血液生化学自動分析器	2006.12	1	11,865,000	2,598,435	4	0.438	9,266,565
X線透視撮影装置	2006.12	1	201,547	103,393	2	0.684	98,154
〃	2006.12	1	201,547	103,393	2	0.684	98,154
合 計		6	17,254,309	7,541,854			9,712,455

有形固定資産総計		16	351,911,337	223,880,568			128,030,769
----------	--	----	-------------	-------------	--	--	-------------

※尚、今期より外部監査法人による監査を受けております。

収支計算書総括表

平成18年4月1日から平成19年3月31日まで

(単位:円)

科 目	合 計	一般会計	診療事業特別会計
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
基本財産運用収入	120,598,518	120,598,518	0
特定資産運用収入	15,110,000	15,110,000	0
事業収入	617,177,469	388,507,911	228,669,558
雑収入	31,760,366	29,171,376	2,588,990
有価証券評価益収入	9,170,000	9,170,000	0
特別会計からの繰入金収入	5,317,309	5,317,309	0
事業活動収入計	799,133,662	567,875,114	231,258,548
2. 事業活動支出			
事業費支出	535,976,216	535,976,216	0
管理費支出	102,056,060	102,056,060	0
有価証券評価損	39,944,000	39,944,000	0
診療事業支出	224,470,139	0	224,470,139
一般会計への繰出金支出	5,317,309	0	5,317,309
法人税等	1,471,100	0	1,471,100
事業活動支出計	909,234,824	677,976,276	231,258,548
事業活動収支差額	△ 110,101,162	△ 110,101,162	0
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
特定資産取崩収入	33,780,900	33,780,900	0
投資活動収入計	33,780,900	33,780,900	0
2. 投資活動支出			
固定資産取得支出	12,268,094	12,268,094	0
投資活動支出計	12,268,094	12,268,094	0
投資活動収支差額	21,512,806	21,512,806	0
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
借入金収入	0	0	0
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
借入金返済支出	0	0	0
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
当期収支差額	△ 88,588,356	△ 88,588,356	0
前期繰越収支差額	692,402,359	545,245,287	147,157,072
次期繰越収支差額	603,814,003	456,656,931	147,157,072

収 支 計 算 書 (一般会計)

平成18年4月1日から平成19年3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
① 基本財産運用収入	120,600,000	120,598,518	1,482
② 特定資産運用収入	11,600,000	15,110,000	△ 3,510,000
③ 事業収入	384,000,000	388,507,911	△ 4,507,911
④ 雑収入	27,000,000	29,171,376	△ 2,171,376
⑤ 有価証券評価益収入	0	9,170,000	△ 9,170,000
⑥ 特別会計からの繰入金収入	1,140,000	5,317,309	△ 4,177,309
事業活動収入計	544,340,000	567,875,114	△ 23,535,114
2. 事業活動支出			
① 研究事業費支出	10,520,000	6,057,068	4,462,932
② 低額集団健診費支出	499,920,000	479,120,864	20,799,136
③ 健診報告懇話会事業費支出	1,000,000	982,150	17,850
④ 巡回無料健診事業費支出	10,910,000	10,071,368	838,632
⑤ 助成事業費支出	19,780,000	17,406,154	2,373,846
⑥ 健康保持増進援助事業費支出	2,630,000	2,522,290	107,710
⑦ 保健衛生思想普及事業費支出	30,000,000	19,816,322	10,183,678
⑧ 管理費支出	99,360,000	102,056,060	△ 2,696,060
⑨ 有価証券評価損支出	0	39,944,000	△ 39,944,000
事業活動支出計	674,120,000	677,976,276	△ 3,856,276
事業活動収支差額	△ 129,780,000	△ 110,101,162	△ 19,678,838
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
① 特定資産取崩収入	85,000,000	33,780,900	51,219,100
投資活動収入計	85,000,000	33,780,900	51,219,100
2. 投資活動支出			
① 特定資産取得支出	61,000,000	0	61,000,000
② 固定資産取得支出	0	12,268,094	△ 12,268,094
投資活動支出計	61,000,000	12,268,094	48,731,906
投資活動収支差額	24,000,000	21,512,806	2,487,194
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
① 借入金収入	0	0	0
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
① 借入金返済支出	0	0	0
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
IV 予備費支出	231,513,000	0	231,513,000
当期収支差額	△ 337,293,000	△ 88,588,356	△ 248,704,644
前期繰越収支差額	337,293,000	545,245,287	△ 207,952,287
次期繰越収支差額	0	456,656,931	△ 456,656,931

収 支 計 算 書 (診療事業特別会計)

平成18年4月1日から平成19年3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
① 事業収入	227,000,000	228,669,558	△ 1,669,558
② 雑収入	1,000,000	2,588,990	△ 1,588,990
事業活動収入計	228,000,000	231,258,548	△ 3,258,548
2. 事業活動支出			
① 診療事業費支出	226,460,000	224,470,139	1,989,861
② 一般会計への繰出金支出	1,140,000	5,317,309	△ 4,177,309
③ 法人税等	400,000	1,471,100	△ 1,071,100
事業活動支出計	228,000,000	231,258,548	△ 3,258,548
事業活動収支差額	0	0	0
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
① 特定資産取崩収入	0	0	0
② 固定資産売却収入	0	0	0
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
① 特定資産取得支出	0	0	0
② 固定資産取得支出	0	0	0
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
① 借入金収入	0	0	0
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
① 借入金返済支出	0	0	0
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
IV 予備費支出	0	0	0
当期収支差額	0	0	0
前期繰越収支差額	147,157,072	147,157,072	△ 72
次期繰越収支差額	147,157,000	147,157,072	△ 72